

会 議 議 事 録

会 議 名	令和元年度 学校関係者評価委員会		
開 催 日 時	令和元年6月8日（土） 10:00～12:00		
会 場	東京医薬専門学校 第1校舎2Fミーティングルーム		
参 加 者	委員等	4人	(参加者名) 業界関係者：コスメティック・アイダ 神谷 文夫 医療法人柏葉会 柏戸病院 古川 哲也 高等学校関係者：拓殖大学紅陵高等学校 森 章 地域関係者：葛西仲町町会 高橋 茂夫 東京医薬専門学校：学校長 須田 英明 副校長 石橋 佳子 事務局長 居関 暁昌 教務部長 西田 茂男 学部長 渡邊 光浩 広報センター長 篠田 美和 キャリアセンター長 福田 昌彦 学生サービスセンター長 鈴木 保夫
	事務局	8人	
会 議 録	<p>(1) 学校長挨拶</p> <p>本日はお忙しい中、学校関係者評価委員会にご出席いただき大変ありがとうございます。毎年この評価委員会は6月に開催させていただいております。少し前になりますが、私も6月になりますと、ある海外の大学の学校評価の依頼を受けておりまして、実際に授業を見ると授業のほとんどが所謂アクティブラーニングで行われており、試験もそれに対応してグループでローテーションして実施していました。専門学校教育は実学が中心なので、そういった授業形態が一番相応しいのかと思っています。</p> <p>日本に戻ってからはレポートを書くのですが、学校評価というものは外から見たほうが良く見える部分もあると思います。その大学では私の書いたことが翌年には良くなっておりました。</p> <p>今回は評価を受ける立場ですので、評価委員の皆様には忌憚のないご意見を提出いただき、明日からの教育の質の向上に役立てて参りたいと思います。</p> <p>(2) 委員自己紹介</p> <p>上記出席者の自己紹介を実施</p> <p>(3) 学校関係者評価委員会趣旨説明</p> <p>(居関)</p> <p>専門学校は学校制度の中、専修学校専門課程に該当します。専門学校数は現</p>		

在2805校、職業実践専門課程は994校になります。

職業実践専門課程には幾つかの条件があまして、まずは教育課程編成委員会を学科ごとに開催することとなっており、本校でも年2回の開催を行っています。2つ目が企業等と連携した実習を行っていること。3つ目が教員研修で、学園グループおよび外部での研修を実施しています。そして4つ目が企業等が参加する学校関係者評価委員会の実施。5つ目がそれらのことを情報公開しているということとなっています。

本校では12学科の内、10学科が職業実践専門課程となっています。

学校評価については、5月7日の運営会議で自己点検自己評価をさせていただき、皆様に送らせていただきました。これを元に、本日お集まりいただいた皆様にご意見をいただき、学校運営に活かしていくという会議となっております。

配布した資料で学校の紹介をさせていただくと、滋慶学園は現在76校ある中の1校で、強い理念や教育方針に基づいた学校運営をしています。本校は今年で40周年を迎え、記念の同窓会を11月に予定しています。

その他の資料も参考にしながら、本日の評価をお願いしたいと思います。

(4) 評価

(居関)

お配りしている評価表につきましては、自己点検自己評価を抜粋しているもので、本日はこの評価表に基づいて説明させていただきます。

自己点検自己評価につきましては、10項目で構成されていますが、「教育理念・目的・育成人材像」「学校運営」については、概ねできていると思いますし、「学生の募集と受け入れ」「財務」「法令等の遵守」「社会貢献」につきましても、ある程度は一定の水準は満たしていると思います。

その中でも、「教育活動」「教育成果」「学生支援」「教育環境」には課題がありますので、ここを中心にご説明させていただきます。

●教育活動

<授業改革>

(西田)

教育活動の中では、年授業改革として授業を変えていく・改善していく活動をこの2年に取り組んできており、その部分を説明させていただきます。

授業改革については、入学者が変わってきていることから、学生の成長を促すためには授業を変えていく必要が生じてきたという背景があります。

具体的には、自己肯定感が低い方、精神的な不安のある方、学力差、考え方の多様化等が挙げられます。

授業改革の合言葉としているのが「楽しい授業」です。楽しい授業とは、面白おかしいと言うことではなく、授業が「わかった・できた」といったことで自信をつけてもらうことで、方法論として「アクティブラーニング的(能動的)授業をより多く」ということとなります。

ベースとなる部分については、当然ながら知識・技術をインプットさせ、試験でアウトプットして確認することですが、専門学校ではそれを実践しなけ

ればならず、教えなければならない「明示知」と、言葉等では表すことが困難な「暗黙知」があります。学園としては「授業は明示知を教えるとともに暗黙知を育む教員と学生の共同作業」と定義付けして、授業に取り組んでいます。

この授業を実践するために、授業デザインのベースにある「授業を考える6つの要素」のどこかを工夫して、学生が主体的に授業に取り組めるよう改善を図っています。

具体的な例として、授業映像での研修会・おもしろ授業総選挙が挙げられます。おもしろ総選挙は学生からの投票で選ぶもので、上位の先生は表彰もして学生にも公開しています。

また、実際の授業の様相を映像にしたものがありますので、2つの映像をご覧くださいと思います。(動画投影)

ご覧いただいた授業は1年生の授業で教材の工夫をしたもので、アンケートでは現状70%の授業で何らかのアクティブラーニングが行われており、学習意欲を高める工夫をしています。

・質疑意見

(森)

高校では学校によりアクティブラーニングの導入に大きな差があります。

アクティブラーニングで個々の意見や想像力を高める授業もあれば、50分間の我慢忍耐の大切さを指導する授業もあり、ともに良いものと思うと、なんとなくずれが出ている気がします。

映像の授業は先生が考えたのでしょうか？(はい)

とても素晴らしいと思いました。

(神谷)

感銘しました。先生の努力が伺えます。以前にオランダの小学校の授業を見たことがあり、自由な授業に驚いたのですが、一人ひとりに対応していて、日本ではついていけないのかと思い拝見させていただきました。

(高橋)

教える難しさがあるのだと思いました。

(古川)

仕事は辛いことが多々ありますが、今の入職者は真面目で純粋なため、仕事が楽しく興味を持つことができれば、のめり込めるのではないかと思います。対人関係についても苦手な入職者がいますが、興味を持てれば知識や技能も身に付くのではないかと思います。

(居閑)

授業改革の課題としては、多くの先生方全員に対して個々にフィードバックが時間的にも困難なことです。

紹介した授業以外についても、HPに掲載しています。作られた動画ではなく、実際の授業を撮影しています。(実際のHPの動画を投影)

●教育成果

<就職支援>

(福田)

昨年度の3月末の就職率は93%でした。
分野によって課題が異なっています。
非国家資格系の就職内定率は97%。くすり・化粧品の学科では留学生数が一昨年2名から7名に増加し、留学生の就職支援が課題となっています。言葉の問題もありますが、企業の留学生受け入れが難しい状況です。また、合格率も下がっており、面接指導等も強化する必要があります。
国家資格系の就職内定率は90%。国家資格系は昨年も86%で、学力に不安のある学生は国家試験後に就職活動を希望することとなり、3月末以降に活動開始となり、年度内に決まらないことが課題となっています。まずは就職希望先の目標を持たせてから国家試験に臨む指導を図り、早期内定を目指したいと思います。

(居関)

国家試験の状況は評価表にも記載させていただいています。100%の学科もあれば、課題のある学科もあります。

・質疑意見

(神谷)

過去に留学生を採用したことがあるが、言葉の問題はどうしてもあります。現在も外国人を雇用していますが、企業でトレーニングした方の中途入社で即戦力のみとなっています。社内トレーニングは厳しいです。

(古川)

外国人の看護師はいるが、患者さんへの対応力(気づき)は劣るようです。看護師は増加傾向にあるようです。

(森)

外国籍は各学年10名程度いるが、子供の頃から在留しているので、言葉の問題はありません。

高校によっては留学生が多数在籍している学校もあるようです。

(神谷)

留学生が増えていくようであれば、受け入れ先企業の開拓を学校として組織的な取り組みが必要となってくるのではないのでしょうか。

●学生支援

<留学生支援>

(篠田)

本校の留学生数は増加ないし横ばい傾向になっています。今後もその傾向は続くと思います。

留学生のサポートとしては、就職支援の前の生活習慣支援が必要と考えています。というのも、これまでは、中国・韓国の留学生が主でありましたが、多様な国籍の留学生が増加してきていることと、国内の環境においても、いろいろな学校で留学生の社会的問題も起きてきており、ビザの取得も厳しくなっているためです。

・質疑意見

(神谷)

日本企業もグローバル化が進み、外国人の雇用は重要であると思います。

弊社でも同様ですが、教育に時間を割けられないため中途採用が主流になってしまいます。同時に多数の雇用をするのであれば、人員を配置して教育するのでしょうか、少数の場合は人員は割けません。

(居関・篠田)

グループ校でも介護や食の分野では留学生が多く、学生の1/3程度が留学生となっています。

(神谷)

外国人は、業務の幅が狭い業態や人材不足な業種では受け入れやすい。AI関係は外国人の雇用が進んでいるようで、対人関係が無く、ネット環境で仕事ができるため、文化風習も気にならないと思います。

(高橋)

近隣は以前からインド人が多く、外国人の増加は感じています。

(森)

宗教的に礼拝堂や礼拝の時間を就業規則に入れる必要もあるので、不公平感も出兼ねないと思います。

積極的に留学生の受け入れをしていくスタンスですか？

本校はそれほどではないが、福祉分野等では増員しています。(居関)

本校も留学生の増員は経営上も避けられないかと思います。(須田)

(古川)

外国の方は日本に永住したいと希望しているのですか？

そう希望されている方が多いかと思います。(居関)

ベトナムの方の看護師を多く受け入れた時期がありましたが、大半が国に帰ってしまっています。育てても帰国されてしまうと、、、

やはり、2・3年は日本にいて母国に帰りたい方もいますが、学校のみで日本にいたい方は少ないです。(篠田)

(森)

日本での文化・生活に同化させるのか、外国人の文化・生活を認めるかの線引きは難しいが、気遣いばかりするのではなく、引く部分と押す分と部分と両方必要だと思います。

(神谷)

個別対応は破綻すると思います。その通りだと思います。

●教育環境

(渡邊)

学校の現状について紹介させていただきます。

2018年度にプロジェクターの導入を本格的に始め、全教室に設置が完了しています。授業においてパワーポイントの利用やアクティブラーニングに活用しています。

iPADの活用については、一部の学科で使い始めています。

第1校舎の10Fと4Fは、双方向で映像が連動しての授業が行えるようになっています。

第1校舎7Fでは、全員が個々のモニターで先生の手元を見ながら実習ができます。

全館で1000名利用可能なフリーWi-Fiの導入が完了しています。
VRについては設備ありませんが、今後の活用について検討するため、企業の体験に参加してきています。
好事例の水平展開として、多くの先生方の知識技術・授業成果を蓄えていき、今後の水平展開を目指しています。

(5) 総評

(森)

先生方の工夫された授業に、とても感銘しました。
ネットでも見るができるようですが、もっと見てもらえれば学生募集にもおいても、一層魅力ある学校として前面に押し出されるのではないのでしょうか。先生方の普段の努力に頭の下がる思いです。
働き方改革の中、先生方・事務の方の働き方の工夫等あるようでしたら、お聞きしたいです。

本校においても勤怠管理等を実施していますが、熱のある教員ほど残る傾向にあり、学生指導や面談で残業になることが多いのが現状です。教育現場ならではの仕事を大切にしながら他の時間を減らすという悩ましい状況です。(居関)

(神谷)

これからの先生はエンターテインメント性が必要なのでしょうか。本日は、そんなことが浮かび、今後の教育の難しさを感じました。
企業家としては、国の繁栄の根幹は教育であると思っています。普段は教育に関して考える機会はないのですが、少子化やひきこもり問題もあり、家庭教育について見つめ直すきっかけにもなりました。皆さんの取り組みによって日本も良くなっていくのではないかと感じます。

(高橋)

私自身、色々な仕事をしてきましたが、教育に関しては分からないことが多かったので、大変勉強になりました。

(古川)

今日は私自身が大変勉強になりました。正直、私達現場が求めている学生さんには求めるものが多いのですが、教育の難しさも分かり、経営も考えながら、両立させる必要性を感じました。今後も少なからずご協力できればと思っています。

国家資格を持っている方はモチベーションも高いのですが、医療事務の仕事は多岐に渡るため目標が定まっていない方が多いです。そのため教育は必要で苦労しているところです。このため、病院によっては事務を大学から採用するケースが増加傾向にあるようで、専門学校での巻き返しが課題かと思えます。しかし、現場としては基礎知識を身につけた専門学校生の方がありがたいのは事実ですので、今後も協力をしていきたいと思えます。

(学校長)

皆様、今日はありがとうございました。
いろいろなご意見を頂戴いたしまして、学校としては事業改善・学校改革に

結びつける必要がございますので、言いつばなし聞きつばなしにはしたくないと考えております。会議資料には皆様から頂戴したご意見は漏らさず記載させていただいき、議事録も含め学校のHPに掲載させていただきます。また、皆様から頂戴したご意見を、可能な限り速やかに現実化していく必要があると考えております。

特に留学生の問題については、非常に大きな問題になると思います。学園グループ76校では3500人以上おりますが、遥かに多い外国人が専門学校で学んでいる状況ですので、これからどのように留学生を扱っていくかということも、ご意見を参考に考えて参りたいと思います。

委員の皆様のご貴重なご意見を、これから活かして行かなければならないと思っています。本日はありがとうございました。

(6) 諸連絡

評価表等のご記入の上、お配りした封筒にて返送をお願いします。

以 上